



平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年2月4日

上場会社名 日本化成株式会社

上場取引所 東

コード番号 4007 URL <http://www.nkchemical.co.jp>

代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 中村 英輔

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 関 信哉

TEL 03-5540-5861

四半期報告書提出予定日 平成23年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満四捨五入)

1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	29,114	9.1	2,490	483.1	2,475	874.4	1,337	936.4
22年3月期第3四半期	26,687	△32.4	427	△52.9	254	△74.6	129	△74.9

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	12.72	—
22年3月期第3四半期	1.23	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第3四半期	39,048	13,670	34.9	129.69
22年3月期	36,075	12,569	34.7	119.04

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 13,629百万円 22年3月期 12,510百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	0.00	—	2.00	2.00
23年3月期	—	0.00	—	—	—
23年3月期 (予想)	—	—	—	4.00	4.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	40,000	4.4	2,900	99.4	2,900	135.4	1,440	117.9	13.70

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 有

4. その他（詳細は、[添付資料]4ページ「2. その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 _____）、除外 一社（社名 _____）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	23年3月期3Q	105,115,800株	22年3月期	105,115,800株
② 期末自己株式数	23年3月期3Q	26,873株	22年3月期	25,010株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	23年3月期3Q	105,089,819株	22年3月期3Q	105,092,289株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

平成22年10月28日に公表いたしました通期の連結業績予想を本資料において修正しております。本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

なお、業績予想に関する事項につきましては、四半期決算短信[添付資料]3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	4
(1) 重要な子会社の異動の概要	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
(第3四半期連結累計期間)	7
(第3四半期連結会計期間)	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) セグメント情報	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	13

(説明資料) 平成23年3月期 第3四半期決算概要

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間における日本経済は、欧米経済の先行き、不安定な為替動向等、世界経済の不透明感が増す中、円高の長期化、国内政策効果の終了・縮小等の影響も加わり、昨年秋頃まで継続していた回復基調の下振れ懸念もありましたが、最終的には大きな影響をもたらす諸変動もなく、全体的な景況感は、概ね底堅く推移しました。

このような状況の下、当社グループは、最終年度に入った3ヶ年の新中期経営計画「NKC-Plan2010」のアクションプログラムに沿って、各種の合理化、効率化、生産効率アップ等のコストダウン努力、販売数量確保等、業績の向上に引き続き注力いたしました。

こうした中、当社グループの当第3四半期連結累計期間の業績は、第2四半期までは、機能化学品事業が一般的に堅調さを維持し、化成品事業も概ね底堅く推移する一方、無機化学品事業についても、主要顧客の需要回復継続等により持ち直しが続く中で、第3四半期に入り、機能化学品事業及び無機化学品事業関連需要が当初想定以上の進展を見せ、これに各種収益向上諸施策の効果も相俟って、前年同期に比べ増収・増益となりました。

具体的には、当第3四半期連結累計期間の売上高は、29,114百万円（前年同期比9.1%増）となりました。損益につきましては、営業利益は2,490百万円（前年同期比483.1%増）、経常利益は2,475百万円（前年同期比874.4%増）、四半期純利益は1,337百万円（前年同期比936.4%増）となりました。

セグメントごとの業績は、次のとおりであります。

なお、前年同四半期との比較は、前年同四半期の数値を第1四半期連結会計期間から適用している新セグメント区分に組み替えて行っております。

(無機化学品事業)

硝酸をはじめとするアンモニア系製品は、主要顧客の需要が想定以上に回復したことにより、販売数量、売上高とも増加しました。ゴム用カーボンブラックは、自動車タイヤ向け需要の回復により、販売数量、売上高とも増加しました。合成石英粉は、前年度後半以降回復過程を辿り始めた半導体関連分野の需要増加傾向の継続等により、販売数量、売上高とも増加しました。ディーゼル車脱硝用高品位尿素水（アドブルー）は、市場競争の激化により、販売数量、売上高とも減少しました。

その結果、売上高は14,010百万円（前年同期比20.7%増）となりました。

(機能化学品・化成品事業)

タイク（ゴム、プラスチック架橋助剤）は、フッ素樹脂及びフッ素ゴム等従来向け用途に加え、太陽電池封止材向け需要の伸張等により、販売数量、売上高とも増加しました。脂肪酸アמיד及び紫外線硬化性樹脂は、需要の回復等により、販売数量、売上高とも増加しました。電子工業用高純度薬品は、半導体市場向けは需要回復により販売数量、売上高とも増加しましたが、液晶パネル向けは市場競争激化等により販売数量、売上高とも減少し、全体として売上高は減少しました。

メタノール及びホルマリンは、需要の回復等により販売数量、売上高とも増加しましたが、木材加工用接着剤は、住宅産業の不振継続等の影響により販売数量、売上高とも減少しました。

その結果、売上高は10,802百万円（前年同期比5.6%増）となりました。

(エンジニアリング事業)

企業の設備投資抑制傾向継続の影響で一般プラント工事の受注が減少したこと等により売上高は2,159百万円（前年同期比16.3%減）となりました。

(その他事業)

貨物運送・荷役事業の売上高は前年同期並みとなりましたが、産業廃棄物処理関連業及び有機溶剤等の蒸留・精製業は処理量の減少により売上高が減少しました。

その結果、売上高は1,964百万円（前年同期比6.3%減）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末における総資産の残高は、前連結会計年度末に比し2,973百万円増加し、39,048百万円となりました。これは、主に売上債権及びたな卸資産等の増加が有形固定資産等の減少を上回ったことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における負債の残高は、前連結会計年度末に比し1,872百万円増加し、25,378百万円となりました。これは、主に仕入債務及び流動負債のその他等の増加が短期借入金等の減少を上回ったことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末に比し1,101百万円増加し、13,670百万円となりました。これは、主に四半期純利益による増加が支払配当金等による減少を上回ったことによるものであります。

この結果、自己資本比率は34.9%、1株当たり純資産は129円69銭となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、税金等調整前四半期純利益及び仕入債務の増加等による収入が、売上債権及びたな卸資産の増加による支出等で使用した支出を上回り、その結果、資金残高は前連結会計年度末より120百万円増加（9.0%増）し、1,460百万円（前年同四半期比123百万円減）となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、2,762百万円（前年同四半期比1,323百万円の収入増）となりました。これは、主に税金等調整前四半期純利益及び仕入債務の増加等による収入が、売上債権及びたな卸資産の増加等による支出を上回ったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、982百万円（前年同四半期比302百万円の支出減）となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、1,656百万円（前年同四半期比1,992百万円の支出増）となりました。これは、主に短期借入金の返済及び配当金の支払いによる支出等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間の業績は、先述の通り、第3四半期に入り、機能化学品事業及び無機化学品事業関連需要が当初想定以上の進展を見せ、これに各種の合理化、効率化、生産効率アップ等のコストダウン努力、更には販売数量確保等の収益向上諸施策の効果も相俟って、平成22年10月28日の業績予想修正発表時点の想定を上回る結果となりました。

一方、今後の見通しにつきましては、ユーロ圏の財政不安、厳しい雇用情勢が続く米国経済の先行き、資源価格の上昇、為替動向等、種々の不透明要素を抱えつつも、新興国経済が比較的堅調に推移し、日本経済にも一部持ち直しの動きが見られ始める中で、景況感は、逐次改善傾向を示しつつあります。

こうした中で、当社を取り巻く諸情勢につきましては、主原燃料価格の動向、市場競争の激化等、必ずしも先行きの不透明感が払拭された状況にはありませんが、当第3四半期連結累計期間までの実績、各事業分野における主要顧客の当面の需要動向等に鑑み、平成23年3月期の通期連結業績は、売上高、営業利益、経常利益及び当期純利益のいずれもが、平成22年10月28日に発表した業績予想数値を上回る見通しといたしました。

詳細につきましては、平成23年2月4日に発表しました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

(簡便な会計処理)

① 棚卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、第2四半期連結会計期間末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定しております。

② 繰延税金資産の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックスプランニングを利用する方法により算定しております。

(特有の会計処理)

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

(会計処理基準に関する事項の変更)

資産除去債務に関する会計基準の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益及び経常利益は0百万円減少し、税金等調整前四半期純利益は159百万円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は163百万円であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,460	1,340
受取手形及び売掛金	12,098	10,412
商品及び製品	2,483	2,015
仕掛品	1,393	311
原材料及び貯蔵品	1,500	1,411
その他	597	611
貸倒引当金	△10	△9
流動資産合計	19,521	16,091
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,807	4,010
機械装置及び運搬具（純額）	3,536	4,110
土地	6,941	6,941
建設仮勘定	879	467
その他（純額）	194	229
有形固定資産合計	15,357	15,757
無形固定資産		
その他	70	92
無形固定資産合計	70	92
投資その他の資産		
その他	4,120	4,187
貸倒引当金	△20	△52
投資その他の資産合計	4,100	4,135
固定資産合計	19,527	19,984
資産合計	39,048	36,075

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,414	5,071
短期借入金	10,667	11,997
未払法人税等	714	305
賞与引当金	115	344
その他	2,027	1,482
流動負債合計	20,937	19,199
固定負債		
長期借入金	1,112	1,227
退職給付引当金	2,940	2,882
役員退職慰労引当金	86	102
その他	303	96
固定負債合計	4,441	4,307
負債合計	25,378	23,506
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,593	6,593
利益剰余金	7,049	5,922
自己株式	△5	△5
株主資本合計	13,637	12,510
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△8	△0
評価・換算差額等合計	△8	△0
少数株主持分	41	59
純資産合計	13,670	12,569
負債純資産合計	39,048	36,075

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	26,687	29,114
売上原価	21,758	22,229
売上総利益	4,929	6,885
販売費及び一般管理費	4,502	4,395
営業利益	427	2,490
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	123	79
持分法による投資利益	22	21
受取賃貸料	—	45
その他	114	71
営業外収益合計	260	216
営業外費用		
支払利息	127	98
減価償却費	238	75
その他	68	58
営業外費用合計	433	231
経常利益	254	2,475
特別損失		
減損損失	20	7
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	159
関係会社事業損失引当金繰入額	—	31
ゴルフ会員権評価損	—	15
特別損失合計	20	212
税金等調整前四半期純利益	234	2,263
法人税、住民税及び事業税	37	869
法人税等調整額	64	74
法人税等合計	101	943
少数株主損益調整前四半期純利益	133	1,320
少数株主利益又は少数株主損失(△)	4	△17
四半期純利益	129	1,337

(第3四半期連結会計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結会計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日)
売上高	9,687	10,332
売上原価	7,730	7,827
売上総利益	1,957	2,505
販売費及び一般管理費	1,540	1,478
営業利益	417	1,027
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	5	2
持分法による投資利益	14	10
受取保険金	—	25
その他	57	35
営業外収益合計	76	72
営業外費用		
支払利息	41	31
減価償却費	80	—
その他	19	19
営業外費用合計	140	50
経常利益	353	1,049
特別損失		
減損損失	—	7
関係会社事業損失引当金繰入額	—	31
特別損失合計	—	38
税金等調整前四半期純利益	353	1,011
法人税、住民税及び事業税	13	335
法人税等調整額	139	93
法人税等合計	152	428
少数株主損益調整前四半期純利益	201	583
少数株主利益又は少数株主損失(△)	6	△6
四半期純利益	195	589

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	234	2,263
減価償却費	1,752	1,388
減損損失	20	7
投資有価証券評価損益 (△は益)	0	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	159
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	139	58
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	6	△16
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△263	△229
固定資産除却損	14	8
関係会社事業損失引当金の増減額 (△は減少)	—	31
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△0	0
受取利息及び受取配当金	△124	△79
支払利息	127	98
持分法による投資損益 (△は益)	△22	△21
ゴルフ会員権評価損	—	15
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,300	△1,686
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△233	△1,639
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	112	△37
仕入債務の増減額 (△は減少)	△577	2,343
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	1,155	574
その他	2	24
小計	1,042	3,261
利息及び配当金の受取額	133	88
利息の支払額	△125	△100
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	389	△487
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,439	2,762
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,251	△968
有形固定資産の売却による収入	11	3
無形固定資産の取得による支出	△41	△4
投資有価証券の取得による支出	△2	△2
短期貸付金の回収による収入	1	0
長期前払費用の取得による支出	△7	△8
その他	5	△3
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,284	△982
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	140	△1,330
長期借入れによる収入	1,000	—
長期借入金の返済による支出	△595	△115
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△209	△210
少数株主への配当金の支払額	—	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー	336	△1,656
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3	△4
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	488	120
現金及び現金同等物の期首残高	1,095	1,340
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,583	1,460

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

前第3四半期連結会計期間（自平成21年10月1日 至平成21年12月31日）

	無機化学品事業 (百万円)	機能化学品・ 化成品事業 (百万円)	エンジニアリ ング事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	4,397	3,526	1,004	760	9,687	—	9,687
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	5	16	12	6	39	(39)	—
計	4,402	3,542	1,016	766	9,726	(39)	9,687
営業利益	47	342	21	37	447	(30)	417

前第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年12月31日）

	無機化学品事業 (百万円)	機能化学品・ 化成品事業 (百万円)	エンジニアリ ング事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	11,671	10,286	2,579	2,151	26,687	—	26,687
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	15	44	36	23	118	(118)	—
計	11,686	10,330	2,615	2,174	26,805	(118)	26,687
営業利益又は営業損失(△)	△473	886	35	65	513	(86)	427

(注) 1. 事業区分の方法

当社の事業区分の方法は、経営管理上の販売区分によっております。

2. 各事業区分の主要製品

- (1) 無機化学品事業……………アンモニア系製品、ゴム用カーボンブラック、合成石英粉
- (2) 機能化学品・化成品事業……メタノール、ホルマリン、接着剤、アマイド、タイヤ、
機能性モノマー、電子工業用高純度薬品
- (3) エンジニアリング事業……………プラント設計・建設・修繕、建築、土木
- (4) その他事業……………貨物運送・荷役業、サービス関連業（石油販売業、熱供給業、
産業廃棄物処理関連業等）

[所在地別セグメント情報]

前第3四半期連結会計期間（自平成21年10月1日 至平成21年12月31日）及び前第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年12月31日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び在外支店はないので、該当事項はありません。

[海外売上高]

前第3四半期連結会計期間（自平成21年10月1日 至平成21年12月31日）及び前第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年12月31日）

海外売上高は連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

[セグメント情報]

1. 報告セグメントの概要

当第3四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年12月31日）及び当第3四半期連結会計期間（自平成22年10月1日 至平成22年12月31日）

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、製品・サービス別の製造販売体制を置き、取り扱う製品・サービスについて包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。したがって、当社は製造販売体制を基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成されており、「無機化学品事業」、「機能化学品・化成品事業」、「エンジニアリング事業」の3つを報告セグメントとしております。

「無機化学品事業」は、アンモニア系製品、ゴム用カーボンブラック、合成石英粉を主要製品としております。「機能化学品・化成品事業」は、メタノール、ホルマリン、接着剤、アמיד、タイヤ、機能性モノマー、電子工業用高純度薬品を主要製品としております。「エンジニアリング事業」では、プラントの設計・建設・修繕、建築、土木を受注・施工しております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年12月31日）

	報告セグメント				その他 (百万円) (注)1	合計 (百万円)	調整額 (百万円) (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円) (注)3
	無機化学品 事業 (百万円)	機能化学 品・化成品 事業 (百万円)	エンジニア リング事業 (百万円)	計 (百万円)				
売上高								
(1) 外部顧客への 売上高	14,010	10,802	2,159	26,971	1,964	28,935	179	29,114
(2) セグメント間の 内部売上高 又は振替高	-	28	76	104	190	294	△ 294	-
計	14,010	10,830	2,235	27,075	2,154	29,229	△ 115	29,114
セグメント利益 又は損失(△)	1,275	1,185	46	2,506	△ 25	2,481	9	2,490

当第3四半期連結会計期間（自平成22年10月1日 至平成22年12月31日）

	報告セグメント				その他 (百万円) (注)1	合計 (百万円)	調整額 (百万円) (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円) (注)3
	無機化学品 事業 (百万円)	機能化学 品・化成品 事業 (百万円)	エンジニア リング事業 (百万円)	計 (百万円)				
売上高								
(1) 外部顧客への 売上高	5,016	3,741	844	9,601	675	10,276	56	10,332
(2) セグメント間の 内部売上高 又は振替高	-	10	29	39	70	109	△ 109	-
計	5,016	3,751	873	9,640	745	10,385	△ 53	10,332
セグメント利益	543	455	42	1,040	3	1,043	△ 16	1,027

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、貨物運送・荷役事業、サービス関連業（熱供給業、有機溶剤等の蒸留・精製業、産業廃棄物処理関連業等）を含んでおりま
す。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額の内容は、以下のとおりであります。

	当第3四半期連結累計期間（百万円）	当第3四半期連結会計期間（百万円）
売上高	179	56
売上原価	△ 31	△ 17
全社費用※	△ 139	△ 55
合計	9	△ 16

※全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

4. 追加情報

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

(参考情報)

前第3四半期連結累計期間及び前第3四半期連結会計期間の事業の種類別セグメント情報を新セグメント区分に組み替えると以下の通りとなります。

前第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年12月31日）

	報告セグメント				その他 (百万円)	合計 (百万円)	調整額 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円)
	無機化学品 事業 (百万円)	機能化学 品・化成品 事業 (百万円)	エンジニア リング事業 (百万円)	計 (百万円)				
売上高								
(1) 外部顧客への 売上高	11,612	10,229	2,579	24,420	2,095	26,515	172	26,687
(2) セグメント間の 内部売上高 又は振替高	-	30	67	97	173	270	△ 270	-
計	11,612	10,259	2,646	24,517	2,268	26,785	△ 98	26,687
セグメント利益 又は損失(△)	△ 531	721	35	225	100	325	102	427

前第3四半期連結会計期間（自平成21年10月1日 至平成21年12月31日）

	報告セグメント				その他 (百万円)	合計 (百万円)	調整額 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円)
	無機化学品 事業 (百万円)	機能化学 品・化成品 事業 (百万円)	エンジニア リング事業 (百万円)	計 (百万円)				
売上高								
(1) 外部顧客への 売上高	4,376	3,531	1,004	8,911	717	9,628	59	9,687
(2) セグメント間の 内部売上高 又は振替高	-	11	22	33	71	104	△ 104	-
計	4,376	3,542	1,026	8,944	788	9,732	△ 45	9,687
セグメント利益	73	316	21	410	35	445	△ 28	417

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

平成23年3月期 第3四半期決算概要

日本化成株式会社

1. 連結業績

[単位:百万円]

	当第3四半期 連結累計期間 (H22. 4. 1- H22. 12. 31)	前年同四半期 連結累計期間 (H21. 4. 1- H21. 12. 31)	増減	
			金額	率
売上高	29,114	26,687	2,427	9.1%
営業利益	2,490	427	2,063	483.1%
金融収支	△ 19	△ 3	△ 16	※1
その他営業外	△ 17	△ 192	175	※2
持分法損益	21	22	△ 1	
経常利益	2,475	254	2,221	874.4%
特別損失	△ 212	△ 20	△ 192	※3
税引前利益	2,263	234	2,029	867.1%
四半期純利益	1,337	129	1,208	936.4%
1株当たり四半期純利益	12円72銭	1円23銭		

※1 金融収支の内訳

	H22/12	H21/12	差
受取利息・配当金	79	124	△45
支払利息	△98	△127	29

※2 その他営業外差異主な内訳

	H22/12	H21/12	差
減価償却費	△75	△238	163

※3 特別損失主な内訳

	当第3四半期	前年同四半期
資産除去債務会計適用影響額等	△ 205	-
減損損失	△ 7	△ 20
計	△ 212	△ 20

①セグメント別売上高 (連結)

		当第3四半期 連結累計期間 (H22. 4. 1- H22. 12. 31)	前年同四半期 連結累計期間 (H21. 4. 1- H21. 12. 31)	増減※
報告 セグ メン ト	無機化学品	14,010	11,612	2,398
	機能化学品・化成品	10,802	10,229	573
	エンジニアリング	2,159	2,579	△ 420
その他		1,964	2,095	△ 131
調整額		179	172	7
計		29,114	26,687	2,427

アンモニア系製品は主要顧客の需要が想定以上に回復したことにより、無機材料は前年度後半以降回復過程を辿り始めた半導体関連分野の需要増加傾向の継続等により、それぞれ販売数量増となり対前年同期比増収

ゴム架橋助剤及び太陽電池封止材向けタフの伸張、その他機能化学品及び化成品の需要回復等により販売数量増となり対前年同期比増収

企業の設備投資抑制傾向継続の影響で一般プラント工事の受注が減少したこと等により対前年同期比減収

貨物運送・荷役事業は前年同期並みとなったものの、産業廃棄物処理関連業及び有機溶剤等の蒸留・精製業の処理量減少等により対前年同期比減収

「セグメント情報等の開示に関する会計基準」の適用に伴い、上記セグメントに属さない電気・蒸気等のコホート部門の売上高を調整額として表示

②セグメント別営業利益 (連結)

		当第3四半期 連結累計期間 (H22. 4. 1- H22. 12. 31)	前年同四半期 連結累計期間 (H21. 4. 1- H21. 12. 31)	増減※
報告 セグ メン ト	無機化学品	1,275	△ 531	1,806
	機能化学品・化成品	1,185	721	464
	エンジニアリング	46	35	11
その他		△ 25	100	△ 125
調整額		9	102	△ 93
計		2,490	427	2,063

販売数量増等に伴い対前年同期比増益

販売数量増等に伴い対前年同期比増益

採算向上努力等により対前年同期比増益

燃料油価格上昇、処理量減少等の影響をコスト削減努力で吸収しきれず対前年同期比減益

「セグメント情報等の開示に関する会計基準」の適用に伴い、上記セグメントに属さない電気・蒸気等のコホート部門の損益を調整額として表示

(含みらいプロジェクト開発費用 H22第3Q △94 H21第3Q △79)

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する

「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

※前年同期との比較は、前年同期の数値を第1四半期から適用する新セグメント区分に組み替えて行っております。

2. 連結比較貸借対照表

	当第3四半期 連結会計期間末 (H22. 12. 31)	前連結会計 年度末 (H22. 3. 31)	増減		当第3四半期 連結会計期間末 (H22. 12. 31)	前連結会計 年度末 (H22. 3. 31)	増減
現預金	1,460	1,340	120	有利子負債	11,779	13,224	△ 1,445
棚卸資産	5,376	3,737	1,639	営業債務他	13,599	10,282	3,317
営業債権他	12,685	11,014	1,671	株主資本	13,637	12,510	1,127
固定資産(有形・無形)	15,427	15,849	△ 422	評価・換算差額等	△ 8	△ 0	△ 8
投融資等	4,100	4,135	△ 35	少数株主持分	41	59	△ 18
資産合計	39,048	36,075	2,973	負債・純資産合計	39,048	36,075	2,973

(注) 自己資本=純資産-少数株主持分

D/Eレシオ=有利子負債/自己資本

自己資本	13,629	12,510	1,119
自己資本比率	34.9%	34.7%	0.2%
有利子負債	11,779	13,224	△ 1,445
D/Eレシオ	0.86	1.06	△ 0.20

3. 連結キャッシュ・フロー

(参考)

	当第3四半期 連結累計期間 (H22. 4. 1- H22. 12. 31)	税引前利益2,263、減価償却費1,388、仕入債務の増加2,343、 売上債権の増加△1,686、棚卸資産の増加他△1,546	前年同四半期 連結累計期間 (H21. 4. 1- H21. 12. 31)
営業活動によるCF	2,762		1,439
投資活動によるCF	△982	設備投資に伴う支出△972他△10	△1,284
フリー・キャッシュ・フロー	1,780		155
財務活動によるCF	△1,656	借入金の返済△1,445、配当金の支払他△211	336
現金及び現金同等物に係る 換算額	△4		△3
現金及び現金同等物の増減	120		488

4. 連結通期業績予想

(平成23年2月4日発表)

	23年3月期 予想	22年3月期 実績	増減	
			金額	率
売上高	40,000	38,301	1,699	4.4%
営業利益	2,900	1,454	1,446	99.4%
経常利益	2,900	1,232	1,668	135.4%
特別損益	△ 500	△ 152	△ 348	※
税引前利益	2,400	1,080	1,320	122.2%
当期純利益	1,440	661	779	117.9%
1株当り当期純利益	13円70銭	6円29銭		
1株当り配当金(期末のみ)	4円	2円		

※特別損益(予想)の主な内訳

	23年3月期 予想	22年3月期 実績
資産除去債務会計適用影響額等	△ 205	-
固定資産処分損他	△ 288	△ 28
減損損失	△ 7	△ 70
臨時償却費	-	△ 54
計	△ 500	△ 152

①セグメント別売上高(連結)

		23年3月期 予想	22年3月期 実績	増減	
報告セグメント	無機化学品	18,300	16,391	1,909	アモニア系製品及び無機材料の販売数量増等により増収
	機能化学品・化成品	14,400	13,870	530	ゴム架橋助剤及び太陽電池封止材向けタタケの伸張、その他機能化学品及び化成品の販売数量増等により増収
	エンジニアリング	4,500	5,002	△ 502	一般プラント工事受注減により減収
その他		2,600	2,800	△ 200	貨物運送・荷役事業、産業廃棄物処理関連業及び有機溶剤等の蒸留・精製業の減収
調整額		200	238	△ 38	
計		40,000	38,301	1,699	

②セグメント別営業利益(連結)

		23年3月期 予想	22年3月期 実績	増減	
報告セグメント	無機化学品	1,420	△ 163	1,583	アモニア系製品及び無機材料の販売数量増等に伴い増益
	機能化学品・化成品	1,400	1,024	376	ゴム架橋助剤及び太陽電池封止材向けタタケ、その他機能化学品及び化成品の販売数量増等に伴い増益
	エンジニアリング	100	286	△ 186	一般プラント工事受注減に伴い減益
その他		△ 50	137	△ 187	貨物運送・荷役事業、産業廃棄物処理関連業及び有機溶剤等の蒸留・精製業の減収に伴い減益
調整額		30	170	△ 140	
計		2,900	1,454	1,446	